

2019年9月24日
日本ガス協会

日本ガス協会 広瀬会長 会見発言要旨

1. 2019年度のガス関連実績

(1) ガス販売量、お客さま数

新規小売なども含めた日本全体の4～6月のガス販売量実績は、家庭用、工業用が増加し、全体で対前年4.7%のプラスとなった。昨年同時期と比較し、今年は気温が低い状況であったことなどが影響していると思われる。

メーター取付数、調定数も共に若干増加していることから、お客さま数増も販売量の増加に寄与していると考ええる。

以上のように、全体としては、ガスは販売量もお客さま数も増加傾向である。しかしながら、後述するが、地方では人口減少等の影響により、地方ガス事業者の多くでお客さま数が減少していることから、一概に増加しているとは言いづらい状況である。

(2) スイッチングの状況

大都市圏では、ガスのスイッチングのペースが落ちることなく進んでいる状況であり、特に関東は今年に入ってペースアップしている。その結果、全国合計のスイッチング率は10%を超えており、同じ自由化後2年5ヶ月経過時点の電力のスイッチング状況と比較しても、選択約款の契約件数を母数から除いた同じ土俵で比較すると、ガスの方が進んでいる状況である。今後この差は開いていくのではないかと見ている。

また、大都市圏以外ではスイッチングは発生していないため、地方は安泰かと言うと、そうではない。例えば、先ほど「お客さま数は増えている」と申し上げたが、自由化スタート直前の2016年度とその10年前（2006年度）で取付メーター数を比較すると、約200者あるガス事業者の約6割に

あたる 120 の事業者で減少している。そのほとんどは地方事業者であり、元々オール電化やLPとの競争が激しい上に、人口減少や産業の空洞化などによる地域そのものの衰退に直面し、苦戦している会社が多い状況である。地域の基盤がしっかりしていないと、ガス事業の発展もない。このため、技術開発や需要開発といった取り組み以前に、まず地域を元気にするという活動にガス事業者自らが取り組まなければならない。

ガス協会としてもこれを喫緊の課題としてとらえており、地方事業者を支援すべく、今回「地域活性化フォーラム」を企画しているところである。

2. 地域活性化フォーラムについて

このフォーラムでは、地域貢献や地域活性化につながる先進的な取り組みを実践している地方ガス事業者などを招き、講演やセッションの形で情報発信することで、同じ悩みを持つ事業者のヒントや取り組みの後押しにつなげていく機会にしたいと考えている。

記者の皆さんもご覧いただけるので、少し遠方ではあるが、是非お越し頂きたい。

3. 暮らしとまち未来会議 2019 について

近々開催予定のもう1つの大きなイベントとして、10月31日のガスの記念日に開催する、「暮らしとまち未来会議 2019」がある。

これは、住まいにおける「健康・快適」というキーワードを中心に、昨今のレジリエンス性への注目の高まりを受け、住宅メーカー様やキッチン・バスメーカー様、エネファーム関連メーカー様など、関係する多くの業界と連携して開催するものである。記者の皆さんには、こちらのイベントもご覧いただけるので、ぜひお越し頂きたい。

4. 今後の予定について

この秋は、「即位の礼」という大きなイベントがあるが、その他にも国際会議やイベントが目白押しである。ガス業界においても、先ほどご紹介したイベント以外に、9月26日にはLNG産消会議があり、また11月6日にはLNG導入50周年記念イベントをJERA様と東京ガスの共催で横浜にて開催する。さらには11月10日からのGIIGNL総会など、重要な会議・イベントが続くが、それらの中でガス業界としての発信も行っていきたい。

以上